

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧  
P.2-3

<38週> マイコプラズマ肺炎 - 定点当たり報告数が1999～2001年の平均の1.5倍になっている / その他最新動向



注目すべき感染症  
P.4

<日本脳炎> ブタなどを増幅動物とし、主としてアカイエカによって媒介されるウイルス感染症であり、ヒトに重篤な急性脳炎をおこす。



病原体情報  
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - Vero毒素産生性大腸菌 / 無菌性髄膜炎 / ヘルパンギーナ / コクサッキーA16型&エンテロウイルス71型



速報  
P.6-7

知的障害者援護施設で発生した腸管出血性大腸菌O121による集団感染事例の概要 - 秋田県



海外感染症情報  
P.8-9

バージニア州でマラリア感染 - 米国 / 香港のデング熱流行 / ウエストナイルウイルス - 更新/患者数累計



感染症の話  
P.10-12

成人T細胞白血病  
沖縄、鹿児島、宮崎、長崎県のキャリア率は約5%で、世界的にみても最もHTLV-1地域集積性が強い。



読者のコーナー  
P.13

サルモネラの表記



グラフ総覧(38週)  
P.14-20



38週のデータ  
P.21-28



# 発生動向総覧

第38週コメント 9月26日集計分

## 全数報告の感染症

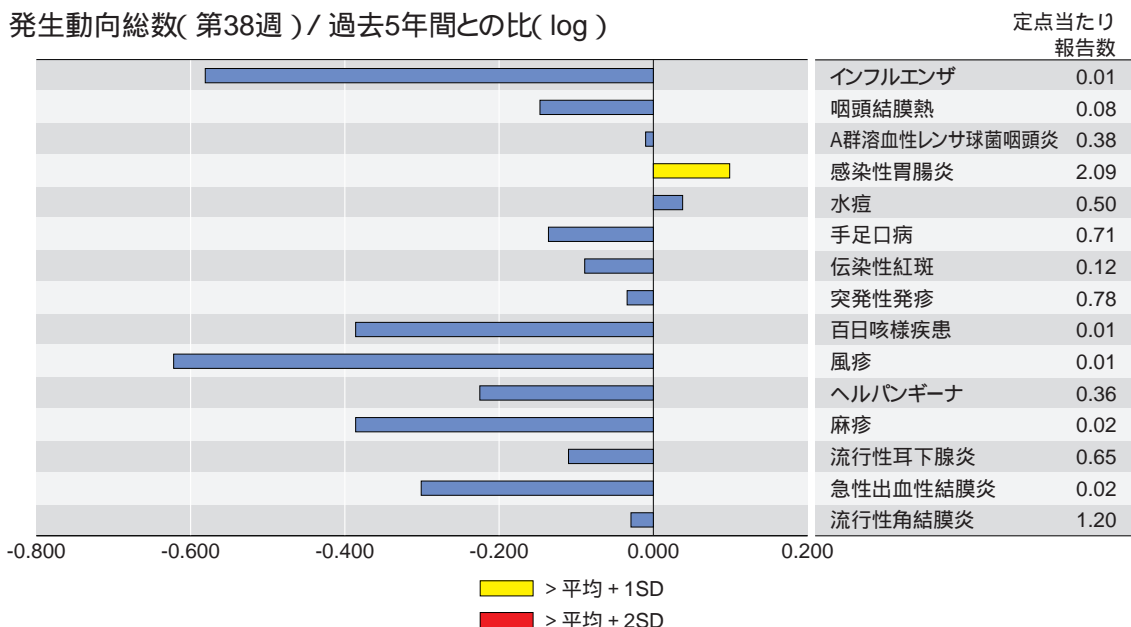
- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢17例(推定感染地: 国内1例、中国4例、インドネシア3例、フィリピン3例、インド、香港各2例、カンボジア/ベトナム、ベトナム各1例)  
 パラチフス1例(推定感染地: インドネシア)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症64例(うち有症者41例、石川県の保育園事例を含む)
- 4類感染症: アメーバ赤痢4例(推定感染地: すべて国内)、エキノコックス症1例(単包条虫)  
 劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例(81歳、血液培養)、ジアルジア症1例  
 デング熱2例(うち1例はデング出血熱、推定感染地: いずれもミャンマー)  
 日本紅斑熱2例(ともに高知県)、日本脳炎2例(広島県から60歳と77歳)  
 破傷風1例(56歳)、レジオネラ症1例(宮崎県)  
 急性ウイルス性肝炎3例      B型2例(感染経路: いずれも不明)  
   EBウイルス1例  
 クロイツフェルト・ヤコブ病2例(ともに孤発性)  
 後天性免疫不全症候群11例(無症候性9例、AIDS 2例)  
   感染経路: 性的接触10例(異性間4、同性間5、異性/同性間1例)、不明1例  
 梅毒3例(早期顕症1例、無症候性2例)

## 定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

感染性胃腸炎は定点当たり報告数は少なく、約5週間ほとんど変わっていない。しかし、過去5年間の同時期に比べるとやや多く、都道府県別では宮崎県(5.1)、愛媛県(5.0)が多い。マイコプラズマ肺炎は依然として、定点当たり報告数が1999～2001年の平均の1.5倍あり、都道府県別では秋田県(1.3)からの報告が多い。

他の疾患の定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比べて多くなってはいないが、咽頭結膜熱は最も定点当たり報告数が少ない時期に差し掛かり、減少を続けている。水痘も報告数の少ない時期であるが、都道府県別では福井県(1.3)からの報告が多い。手足口病、突発性発疹、伝染性紅斑はいずれも例年通りの経過を示しており、都道府県別では、それぞれ鳥取県(3.0)、佐賀県(1.8)、鳥取県(0.5)からの報告が多い。無菌性髄膜炎、ヘルパンギーナ、麻疹(成人麻疹を除く)も順調に減少を続けている。流行性角結膜炎は全体としては減少を続けているが、群馬県(12.0、累積で報告数全体の8.2%)のように、地域的に定点当たり報告数の多いところが残っている。インフルエンザ、百日咳、風疹は、定点当たり報告数が非常に少ない。

発生動向総数(第38週)/過去5年間との比(log)

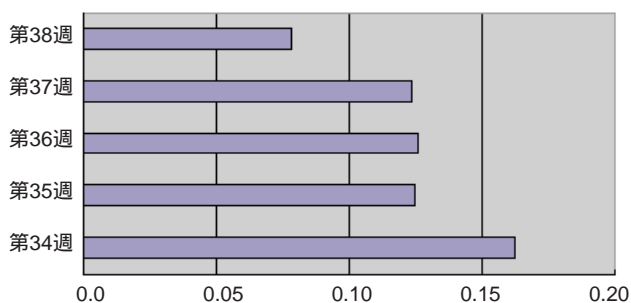


当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

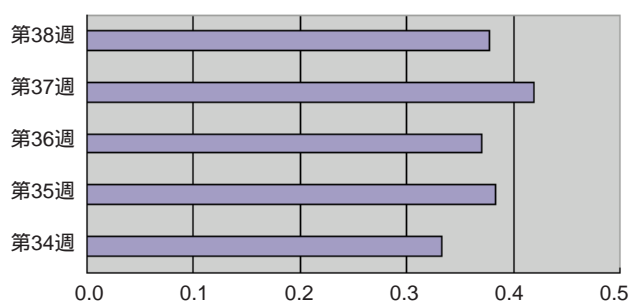
## 最近の注目疾患－5週間の動き

咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、全て前週に比べて減少している。

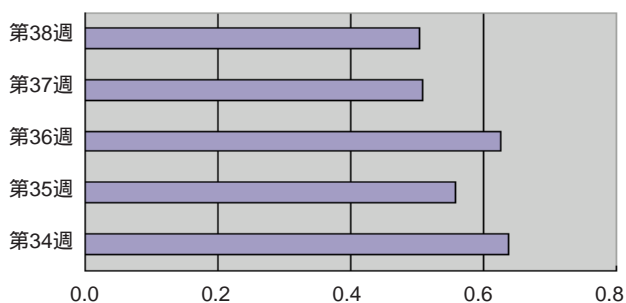
咽頭結膜熱



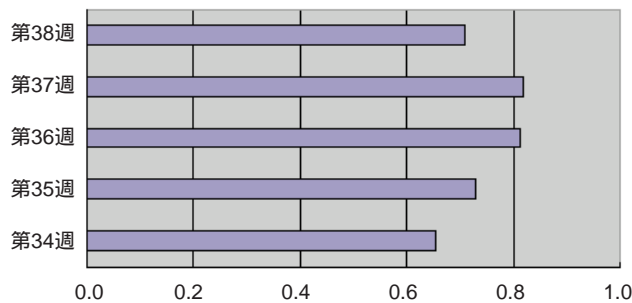
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



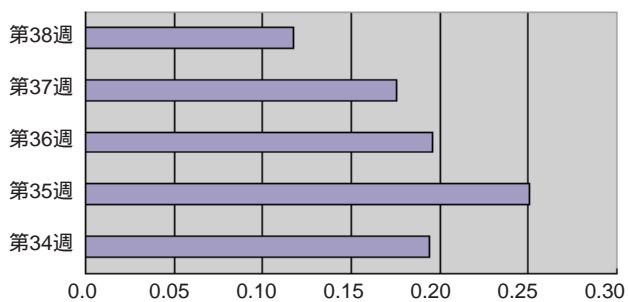
水痘



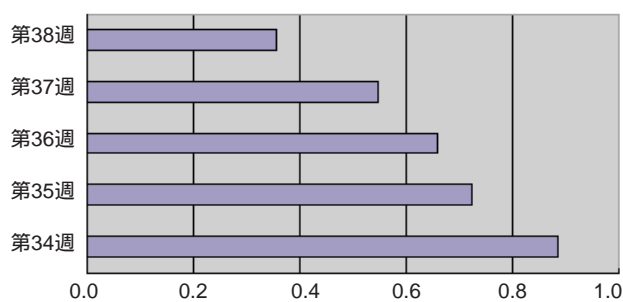
手足口病



伝染性紅斑



ヘルパンギーナ



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数( 報告総数/定点総数 )を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



## 注目すべき感染症

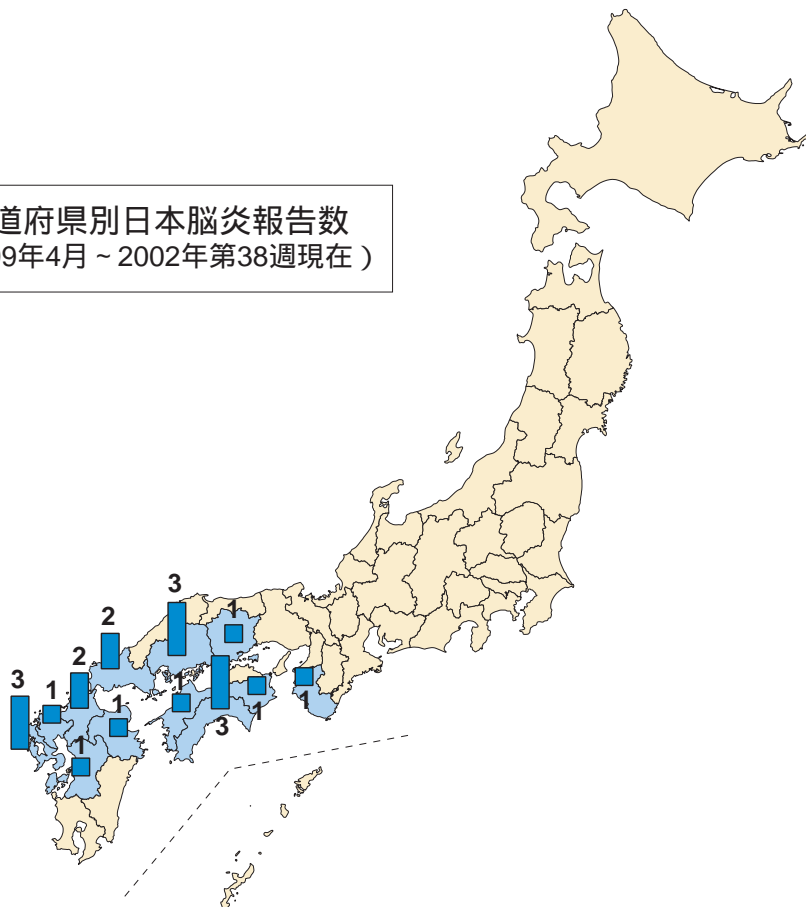
### 日本脳炎

第37週と38週に2週続けて日本脳炎患者の報告があった。日本脳炎はブタなどを増幅動物とし、主としてアカイエカによって媒介されるウイルス感染症であり、ヒトに重篤な急性脳炎をおこす。感染者の100人から1,000人に1人しか発病しないといわれているが、発病後の致死率は20～40%と高く、特に幼少児や老人で死亡の危険が大きい。精神神経学的な後遺症が生存者の45～70%にみられ、小児では特に重度の障害を残すことが多い。流行地域は主に東南アジア、東アジアであり、全体で年間3～4万人の日本脳炎患者の報告がある。日本では、1966年の2,017人をピークに減少し、1992年以降発生数は毎年10人以下であった。感染症法により日本脳炎は4類感染症全数把握疾患となり、引き続き全数把握が行われているが、近年では、1999年5例、2000年7例、2001年5例の報告がある。報告例のほとんどは高齢者であるが、中には10歳代での報告例も2例含まれている。

予防には流行地域で蚊に刺されないような注意が重要であるが、有効な不活化ワクチンがある。

フラビウイルス属のなかでも、特に日本脳炎ウイルス、現在米国などで流行しているウエストナイルウイルス、セントルイス脳炎ウイルス、マレー溪谷脳炎ウイルスは相同性が非常に高い。HI試験では交差反応があるので、特に海外渡航歴のある症例などでは、中和抗体の測定やウイルス分離による病原体診断が重要である。これらは国立感染症研究所ウイルス第一部などで可能である。

都道府県別日本脳炎報告数  
(1999年4月～2002年第38週現在)





# 病原体情報

\*グラフはIASRホームページ( <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html> )からの引用です。  
(2002年9月27日現在報告分)

## ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌 2002年

検出総数は832件で、うちO157が474件(大阪府82、佐賀県61、兵庫県36など)、O26が214件(長野県55、宮城県34、佐賀県28など)、O111が73件(佐賀県52など)、O121が27件(佐賀県23、秋田県4[集団発生由来; 本号速報参照])、その他の血清型が44件である。

## 無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2002年

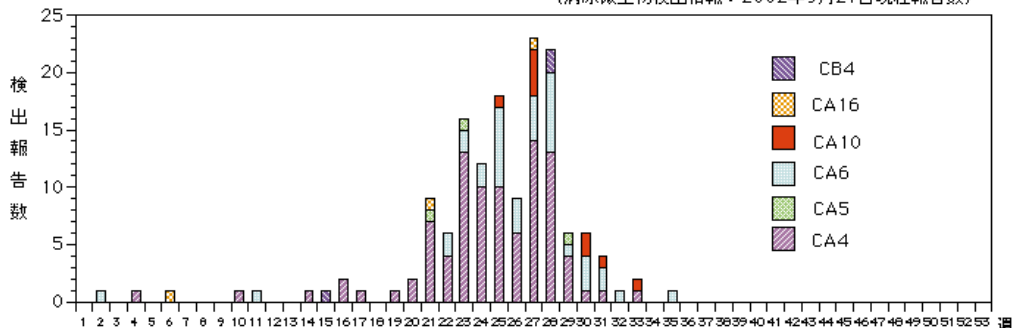
エコーウイルス(E)1,336件(13型951、11型271、9型58、30型39、6型11、14型3、16型1、18型1、25型1)、ムンプスウイルス48件、B群コクサッキーウイルス32件(2型14、5型11、4型4、3型3)、A群コクサッキーウイルス3件(4型2、5型1)の分離が報告されている。

## ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス 2002年

A群コクサッキーウイルス(CA)148件(4型93、6型37、10型9、5型3、8型3、16型3)、エコーウイルス24件(13型18、6型3、9型3)、B群コクサッキーウイルス6件(2型3、4型3)の分離が報告されている。第21週より報告が増加し、CA4は愛知県24、奈良県15、島根県11など、CA6は埼玉県7、長野県7などから報告されている。

週別ヘルパンギーナ患者からの主なコクサッキーウイルス分離報告数、2002年

(病原微生物検出情報: 2002年9月27日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。

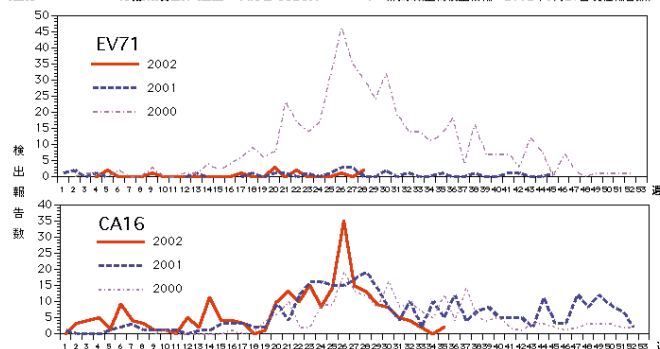


Infectious Agents Surveillance Report

## コクサッキーA16型&エンテロウイルス71型ウイルス 2002年

手足口病起因ウイルスであるコクサッキーA16型ウイルス(CA16)は224件、エンテロウイルス71型(EV71)は12件の分離が報告されている。2001年と同様にEV71の報告は少なく、5県(神奈川県、長野県、熊本県各3、埼玉県2、高知県1)からの分離であるのに対し、CA16は年初より報告が目立ち、第26週をピークとして21府県市(福島県37、島根県27、神奈川県26など)から分離が報告されている。

週別EV71&CA16分離報告数、過去2年間との比較、2002年 (病原微生物検出情報: 2002年9月27日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



Infectious Agents Surveillance Report



## 知的障害者援護施設で発生した腸管出血性大腸菌O121による集団感染事例の概要 - 秋田県

秋田県内の某知的障害者援護施設において腸管出血性大腸菌(EHEC) O121による集団感染事例が発生したので、概要を報告する。2002(平成14)年7月19日、県内の某医療機関検査室から、エンテロヘモリジン(EHT)培地で溶血性を示した大腸菌分離株が病原性確認のため当所に送付された。大腸菌の各種病原遺伝子を検索した結果、当該株がVT2遺伝子と*eaeA*遺伝子を保有するEHECであることが判明した。血清型はO121であった。検査結果を医療機関に回答し、同日16:00、医療機関から担当保健所にEHEC O121/VT2感染者の発生届けがなされた。

患者は10歳代後半の知的障害者援護施設入所者であり、7月13日に下痢と発熱(38.5)で発症した。水様下痢がその後も持続したことから16日に当該医療機関を受診し(検便実施)、抗菌剤投与を含む通院治療を受けた結果、18日に普通便となり症状は落ち着いた。

知的障害者援護施設の定員は120名であり、その内訳は成人70名(うち重度24名)、小児50名(うち重度20名)であった。施設は成人指導西棟、成人指導東棟、児童指導南棟、児童指導北棟の4ブロック、および管理棟に分かれ、食事は3食給食の食堂方式、使用水は上水道であった。入所者の居住室は2～3人部屋となっていた。患者は児童指導南棟(以下南棟、入所者20名)に入所しており、同室者は3名であった。

保健所の調査の結果、7月3日以降下痢などの有症者が8名いることが判明したが、その発症日は7月3～18日にわたっていた。この事実、および有症者が少ないことから、本事例は食中毒ではないとの見方がなされた。

届け出がなされた19日に有症者の検便7検体と給食施設のふきとり検体、翌20日に南棟職員、夜勤職員などの検便22検体が搬入され、検査を実施したところ、これらはすべて陰性であった。翌週24日に、南棟入所者のうち無症状であったために検査を実施していなかった16名の検便が搬入され、これらのうち3名がEHEC O121/VT2陽性であることが判明した。この結果を受けて25日に、7月6～24日の検食19日分57検体、職員、入所者、患者家族などの検便計153検体、食堂などのふきとり検体が搬入され、これらはすべて陰性であることが判明した。以上の調査結果から、感染者の発生は南棟に限定されていることが判明した。このことに加え、患者の発生数が少なかったこと、入所者はオムツを着用するなど糞便汚染発生の機会が多い状況にあったことなどから、本事例では、初発患者から二次感染により南棟の入所者3名に感染が生じた可能性が高いと考えられた。なお、初発患者の発生要因については不明であった。

今回分離されたEHEC O121/VT2はラクトースが1日目に陰性で、CT耐性であった。従って、分離平板にはCT加マッコスキー平板を使用した。食品とふきとり検体は、1999年に発生した焼肉店のO157集団事例に際してふきとり検体からO157を分離し得た方法に準じて、Buffered Pepton Waterで35℃一夜前培養した後、CT加mEC培地で選択増菌し、VTcomプライマーを使用したPCRによりVT遺伝子保有株をスクリーニングした。

全国的にみるとEHEC O121感染者の報告数は非常に少ないものの、佐賀県と秋田県においてはしばしば感染者が確認されている。秋田県では1997年(IASRVol.19, No.10, p.226参照)以降、毎年数名の感染者が発生しており、2000年にはHUS発症事例が発生した(IASRVol.22, No.6, p.141参照)。また、佐賀県においては、本年4月に保育園の集団感染事例が発生している(IASRVol.23, No.6, p.7参照)。本菌感染者の報告数が非常に少ない原因は、型別用血清が市販されていないことであろう。佐賀県の報告にもみられるように、血清が市販されていないことは

集団事例の対応に際しても大きな障害である。何より国内産血清の早急な市販が望まれるが、Statens Serum Institut( Copenhagen, DENMARK )から生菌スライド凝集試験用O:K血清、および試験管内定量凝集用O血清が販売されており、高価ではあるが入手可能である。当所ではO121他数種類の血清を入手している。

型別用血清が市販されていないことから、医療機関検査室においても本菌を同定することは困難である。秋田県においては、エンテロヘモリジン産生性を指標とするEHECスクリーニング用培地であるEHT培地が医療機関検査室に普及している。今回のEHEC O121もEHT培地により医療機関検査室において検出された。ただし、EHEC以外にもEHT培地で溶血を示す大腸菌は極めて多く、VT産生性の確認試験が必須である。秋田県では1996年以降、県内の医療機関における大腸菌分離株のVT産生性確認試験を当所において実施している。健康被害の深刻さから公衆衛生上の重要性が高いにもかかわらず、型別用血清が市販されていないEHEC O121などによる感染事例に的確に対応するためには、医療機関と地方衛生研究所の密接な連携が必須である。

秋田県衛生科学研究所 八柳 潤 齊藤志保子 佐藤晴美

( IASR2002年10月号掲載予定記事より抜粋、詳細は同号参照 )



## 海外感染症情報

\* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ( <http://www.forth.go.jp/> )をご覧ください。

### バージニア州でマラリア感染 - 米国

CDC( Travelers' Health ) 2002年9月16日

2002年8月下旬、バージニア州Loudoun郡で2名が三日熱マラリアに感染した。両名ともに最近の海外旅行の経験、輸血、臓器移植、薬物注射、その他マラリアに感染する要因がなかった。米国でのマラリア患者の大部分は世界のマラリア流行地域で感染している。

2000年に米国で報告された1,402名の患者のうち、2名は血液を介しての感染で、2名は先天的に感染していた。CDCは、Loudoun郡保健局が行っている調査を支援している。さらに、地方保健当局はサーベイランスを強化し、媒介蚊対策を行っている。

### 香港のデング熱流行

Hong Kong Special Administrative Region of the People's Republic of China 2002年9月28日

9月28日現在、香港でデング熱の確定患者25名が報告された。これらの患者のうち13名が輸入例で、12名が現地で感染した。

保健局の報道官は、「これまでのところ、デング熱の確定診断を受けた12名の患者全員がMa Wan( 馬湾 )での勤務者が住民であった。保健局は状況を念入りに監視している」と述べた。

### ウエストナイルウイルス - 更新/患者数累計

情報源: CDC 2002年10月1日現在

州	検査陽性症例数	死亡	州	検査陽性症例数	死亡
アラバマ	30	2	ミシシッピ	163	8
アーカンソー	11		ミズーリ	132	3
カリフォルニア	1		ネブラスカ	67	4
コロラド	3		ニュージャージー	4	
コネチカット	7		ニューヨーク	49	3
ワシントンDC	6		ノースカロライナ	1	
フロリダ	8		ノースダコタ	15	2
ジョージア	19	5	オハイオ	269	12
イリノイ	583	32	オクラホマ	4	
インディアナ	157		ペンシルバニア	26	3
アイオワ	24		サウスカロライナ	1	
ケンタッキー	40	4	サウスダコタ	24	
ルイジアナ	287	14	テネシー	31	4
メリーランド	10		テキサス	92	2
マサチューセッツ	10	2	バージニア	15	1
ミシガン	343	21	ウィスコンシン	19	2
ミネソタ	26				
合 計				2,477	124



Health Canada 2002年9月27日

2002年9月27日現在Health Canadaは、オンタリオ州でウエストナイルウイルス感染疑い患者 (probable) 19名、死亡者1名を含む確定診断患者9名、ケベック州で疑い患者 (probable) 6名、確定診断患者1名の発生を報告した。

ウエストナイルウイルス最新情報

<http://www.cdc.gov/od/oc/media/wnupdate.htm>



# 感染症の話

## 成人T細胞白血病

成人T細胞白血病(ATL)は、幼少時に母乳を介し母親から感染したhuman T-lymphotropic virus type 1(HTLV-1)キャリアにのみ発症する。ATLはHTLV-1キャリアに5～10%の頻度で発症し、2年以内にほとんど死亡する。全国のキャリア数は約100万人、ATL発症数は年間約700例といわれる。ATLの治療は依然としてはかばかしくなく、ATLの予防には感染予防が最善の方法と思われる。

### 疫学

沖縄、鹿児島、宮崎、長崎各県のキャリア率は約5%で、世界的にみても最もHTLV-1地域集積性が強い。これらの人口は日本全国の約4.6%であるが、国内キャリアの1/3を占める。人口比約1%(約150万人)の長崎県では、全国平均の10倍、年間約70例の発症と死亡が確認され、他のすべての白血病とリンパ腫の合計に匹敵する。大都市ではキャリアの多くは高浸淫地出身者の子孫で、そこでの率は低い絶対数は全国の約半数である。

ここで長崎県を対象とし、21世紀のATLについて考えてみよう。妊婦のキャリア率は、1945年出生者の約8%から、1975年出生者の約2%に、対数上直線的に減少した(表1)。1987年出生者のキャリア率は1.0%まで低下したと推定される。スクリーニング参加率、人工栄養・短期/長期母乳哺育の選択率を1987年以降に当てはめると、2010、2020年には、キャリアとして検出される母親数は約100および60例と推定され、ATL発症に至る感染は年間1例以下となり、21世紀後半には長崎県からATLは駆逐されることも予想される。

表1. 長崎県の妊婦キャリア率  
(1970以降は推定値)

出生年	キャリア率 (%)
1950	6.05
1960	3.72
1970	2.28
1980	1.40
1990	0.35
2000	0.15
2010	0.06

### 病原体・病態

ヒトレトロウイルスHTLV-1は逆転写後DNAとなり、CD4<sup>+</sup>T細胞の遺伝子DNAに組み込まれ、プロウイルスとなる。プロウイルス遺伝子は発現し、体内で二次感染を生ずるため感染細胞は多クローン性である(図1A)。不死化感染細胞の大部分はウイルス遺伝子発現をしない。無限増殖もせず、腫瘍細胞でもない。Tax蛋白による多彩な細胞遺伝子発現制御異常で感染細胞は不死化する。ごく一部の細胞は遺伝子発現し、宿主に抗原刺激を行い、キャリアの診断マーカー、抗体を維持する。免疫監視機構は抗原発現細胞を速やかに排除する。感染細胞は生涯消えず、感染者をHTLV-1キャリアという。

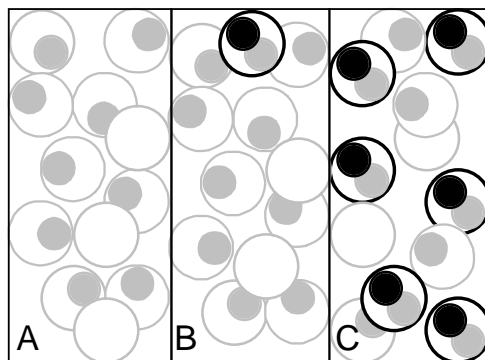


図1. キャリア体内のCD4<sup>+</sup>T細胞

- A: キャリア。多クローン性の感染細胞。
- B: 腫瘍細胞のクローンが出現。
- C: ATL。腫瘍細胞が単クローン性に増殖している。

ATLは、幼少時に母乳を介し母親から感染したHTLV-1キャリアにのみ発症する。成人感染の確証があるATL例は、白血病の治療、移植など高度の免疫不全症例しかない。CD4<sup>+</sup>T感染細胞が数種類の突然変異で腫瘍化し(図1B)、単クローン性に増殖したのがATLである(図1C)。単クローン増殖までの突然変異集積の機構は不明である。近年、60～70歳代の患者が最も多い。

TSP/HAMやぶどう膜炎などの自己免疫性疾患は慢性に経過し、それ自体致命的になることは比較的少ない。自己免疫性疾患は成人感染によっても発症するが、生涯発生率はATLより少ない。

### HTLV-1の感染経路

HTLV-1感染には感染細胞が他のT細胞に接触することが必要で、母乳を介するもの以外の感染経路は、血液の移入(輸血、臓器移植、注射)と性交に限定される。文献的には、輸血により約60%感染するとされているものの、我が国では1987年に輸血用血液のスクリーニングが導入されて以来、輸血感染は消滅している。性交による感染は、結婚後2年で20%程度に男性から女性に感染するという。

我々の調査では、キャリア母親の子供の約20%に感染を認めた。作業仮説「HTLV-1の地域内伝播の大部分は母乳を介した母子感染である」は、「感染母乳なしには感染しない」で証明できる。予測される母子感染と将来のATL発症も予防できよう。長崎大学医学部倫理委員会の承認後、1987年より長崎県ATLウイルス母子感染防止研究協力事業(ATL Prevention Program, [APP], Nagasaki)を人口150万人の長崎県を対象として長崎県、長崎大学、日本母性保護医協会長崎県支部、日本小児科医会長崎県支部の協力によって開始した。

キャリア母乳から毎日約10<sup>6</sup>個が児に移行する。APP開始後も長期母乳哺育群の感染率約20%を確認し(図2)、出生年別妊婦の抗体陽性率から計算した感染率も24%であった。これに対して、人工栄養児への感染は24/747(3.2%)で(P<0.001)、感染の83%を予防した(図2)。

人工栄養児の感染は出産時の感染と思われる。人工栄養児のうちキャリアになった児8例はすべて臍帯血中HTLV-1感染細胞陰性であった。HCV母子感染では、子宮収縮による少量輸血が主役と考えられる。HCV血中濃度が2×10<sup>6</sup>copies/mL以上で、破水後の出産時間が長い母親の約40%はHCV母子感染をおこし、計画的帝王切開では皆無だった。HTLV-1でもその可能性は高いが、人工栄養児のATL発症率は0.2%未満で、計画的帝王切開の適応はない。

Takahashiらは、6カ月未満の短期母乳哺育群の感染率4.4%(4/90)は、長期母乳哺育群の14.4%(20/139)より低いと報告した(P=0.018)。短期間母乳と人工栄養に有意な差は認めなかった(少数例に過ぎた)。この報告から、短期母乳哺育は人工栄養と同じくらい安全であると解釈した人は多いが、長崎の観察では、短期母乳哺育群の11.4%(4/35)は、人工哺育群の3.2%に比較して有意に高く(P=0.032)、短期母乳哺育はより危険率が高いと示された。研究途中のデータは慎重に解釈すべきである。

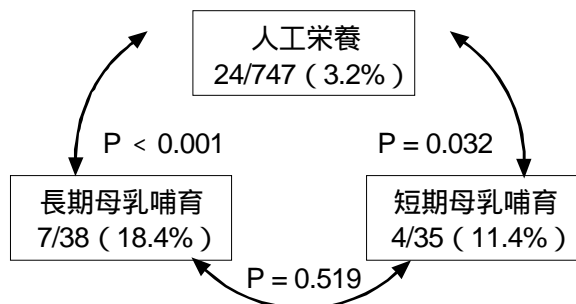


図2. 栄養方法によるHTLV-1母子感染率の相違

### 診断

キャリアの診断は抗体検査による。臨床的に白血病、リンパ腫を疑った場合のATL診断は、抗体陽性、血液像、HTLV-1感染細胞の単クローン性増殖を調べるsouthern blottingによる。進行ATLの患者ではLDH, sIL-2R, Ca<sup>++</sup>が上昇する。一部には、かなり早期から免疫不全の兆候を認める。

### 治療・予防

急性型ATLの治療成績は依然として良くない。G-CSFを加えた多剤化学療法(LSG15)でも50%生存期間は約1年にすぎない。最近では、同種幹細胞移植による好成績が出始めたが、大部分の高齢患者は骨髄移植の適応外になる。「くすぶり型や慢性型は経過観察する」が多数意見である。

ATL発症頻度は低く、感染予防は必要ないという意見があるが、感染児の発症率5～10%は日本の交通事故死危険率の数倍である。母乳哺育を信奉する医師は多いが、母乳で感染した場合の母親の苦痛は以後数十年間続くであろうし、子供が将来どう考えるかも問題である。HTLV-1感染細胞は、56℃30分の加熱、又は凍結(一晚)で処理できる。いずれでも、直接授乳はできない。哺育方法は、これらの事実をふまえた上で母親の選択に任せる。担当の医師がバイアスの少ない十分な情報を与えることを願うのみである。

参考: <http://virus.med.tottori-u.ac.jp>の下「ATLを予防する」

(鳥取大学医学部ウイルス学教室 日野茂男)



## 読者のコーナー

Q:サルモネラ属の分類についていろいろ議論があることは承知していますが、菌種名と血清型名があるので各菌の表記法にはいつも迷ってしまいます。たとえば *Salmonella* Enteritidis, *Salmonella* Oranienburg, *Salmonella choleraesuis*などの正式な表記、略式な表記は今どのようにするのが妥当なのか教えていただけませんか?どこまでイタリックで書くか、どれを大文字にするか、subsp.を付けるのか、serovarを付けるのか、どのようにしたら良いでしょうか?

( 埼玉県小児科医KJ氏 )

### サルモネラの表記

国際命名委員会によると、通常ヒトで問題となるサルモネラの場合、正式な表現は例えば *Salmonella enterica* subsp. *enterica* serovar Enteritidisとなり、血清型の違いに応じて“ Enteritidis ”の部分が変わります。したがって、最初に出てくる箇所のみそのように記載し、それ以降は *Salmonella* Enteritidis、または *S. Enteritidis*と略すのも一法でしょう。他に良く経験されるサルモネラで *S. typhi*, *S. paratyphi* A, *S. typhimurium*, *S. Oranienburg*, *S. choleraesuis*と簡略表記されるものも、同じ *Salmonella enterica* subsp. *enterica*に属します。

しかし、*Salmenella enterical*には亜種として *enterical*以外のものもあり、それらは *Salmonella enterica* subsp. *salamae*, *Salmonella enterica* subsp. *arizonae*, *Salmonella enterica* subsp. *heutenae*, *Salmonella enterica* subsp. *bongori*, *Salmonella enterica* subsp. *indica*の5種類です。

( 国立感染症研究所感染症情報センター )

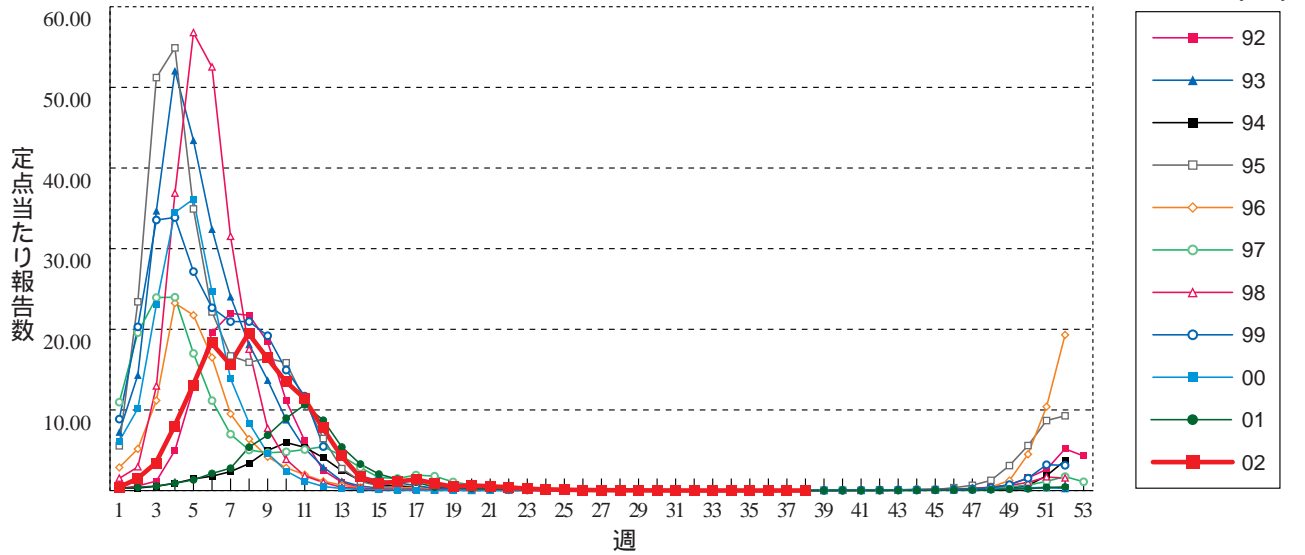
\*\*\*\*\*

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。  
ご意見・ご質問は、題名( タイトル )の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

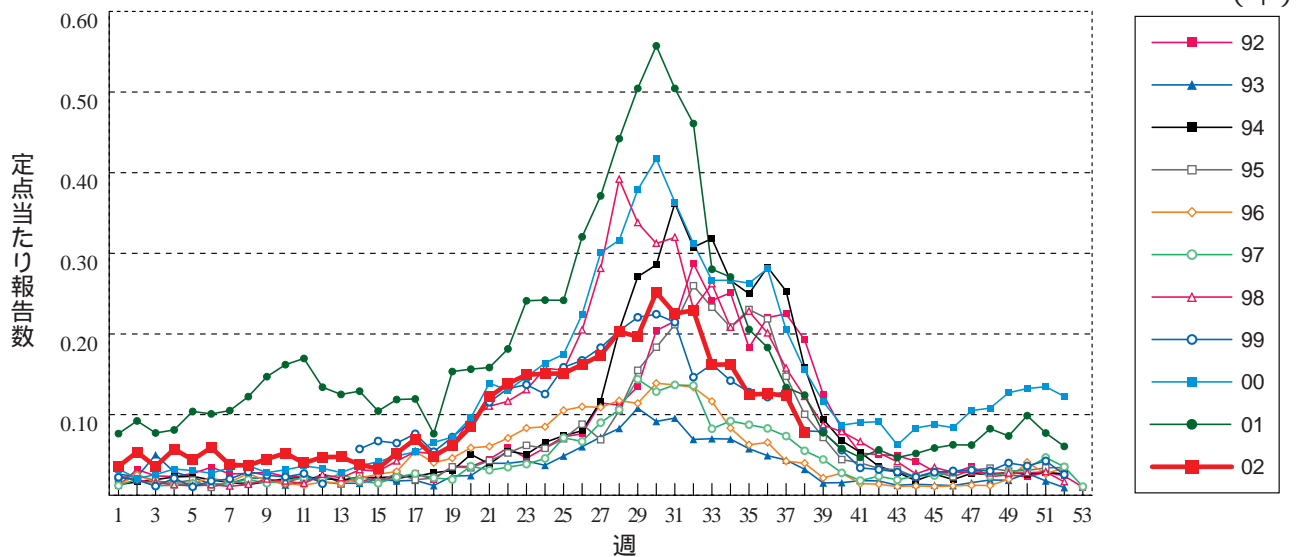
[idsc-query@nih.go.jp](mailto:idsc-query@nih.go.jp)

**グラフ総覧(38週)**

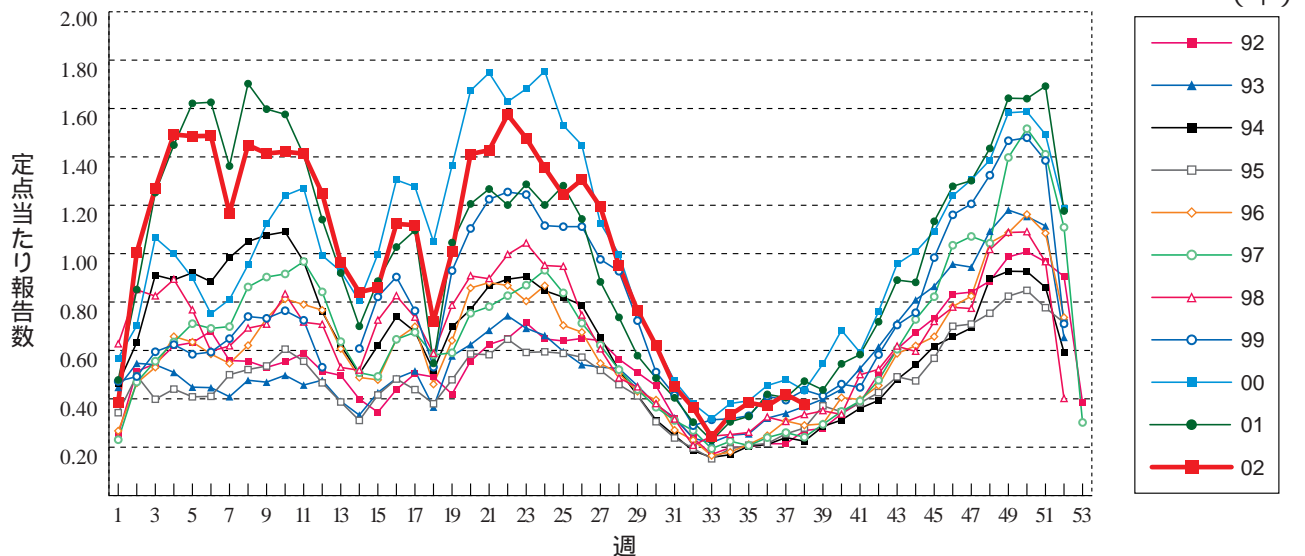
**インフルエンザ**



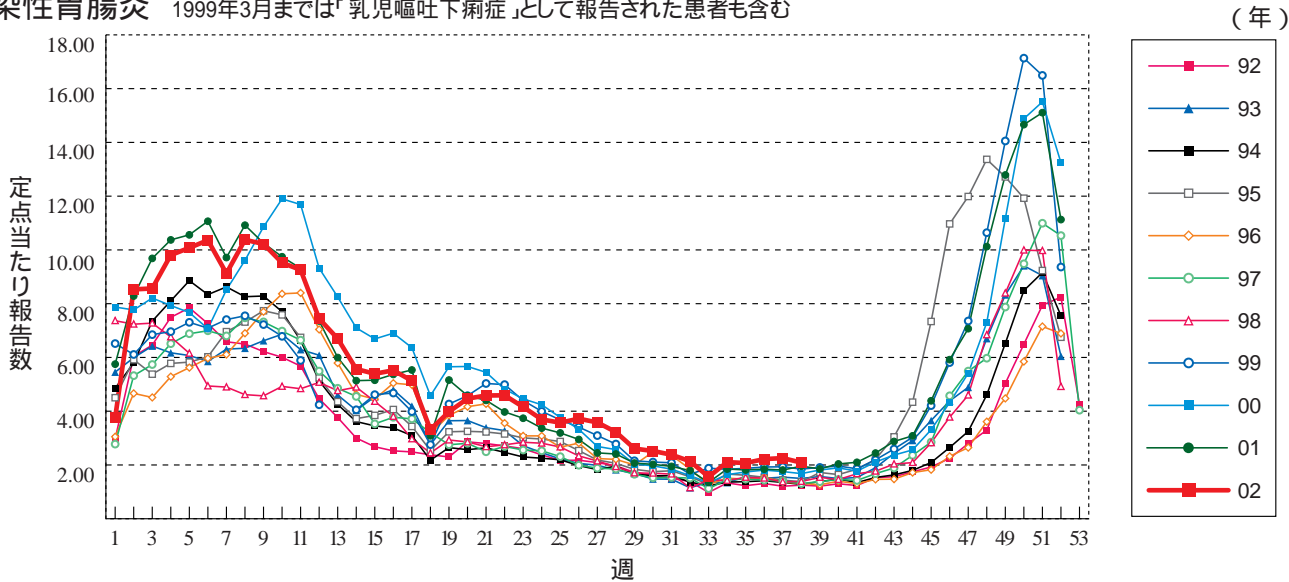
**咽頭結膜熱**



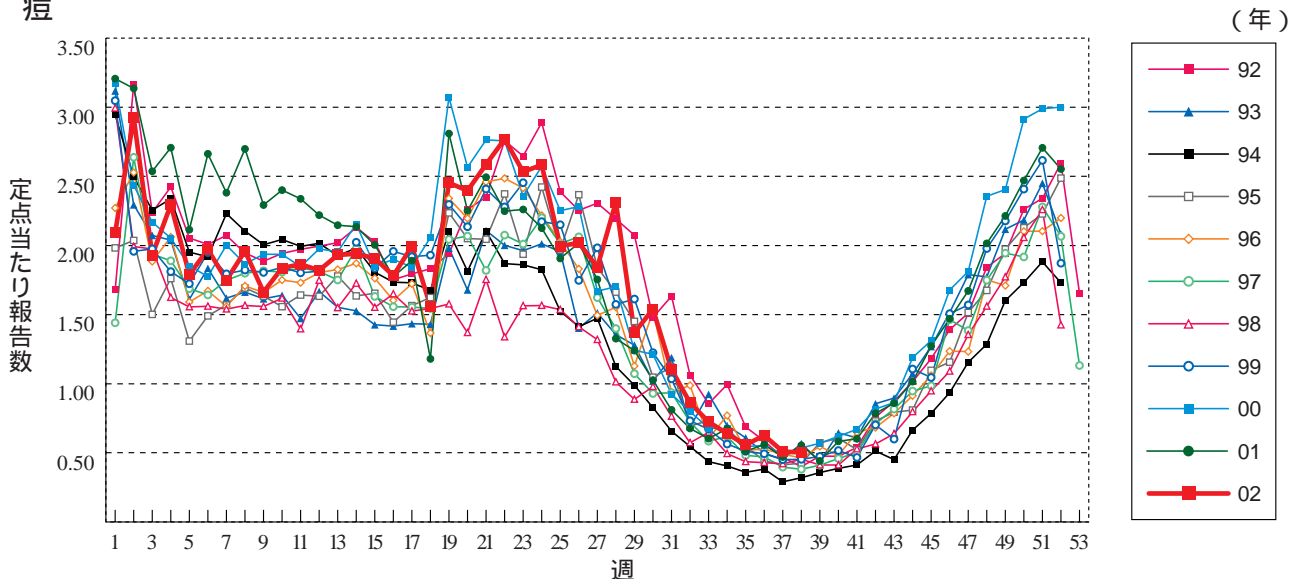
**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**



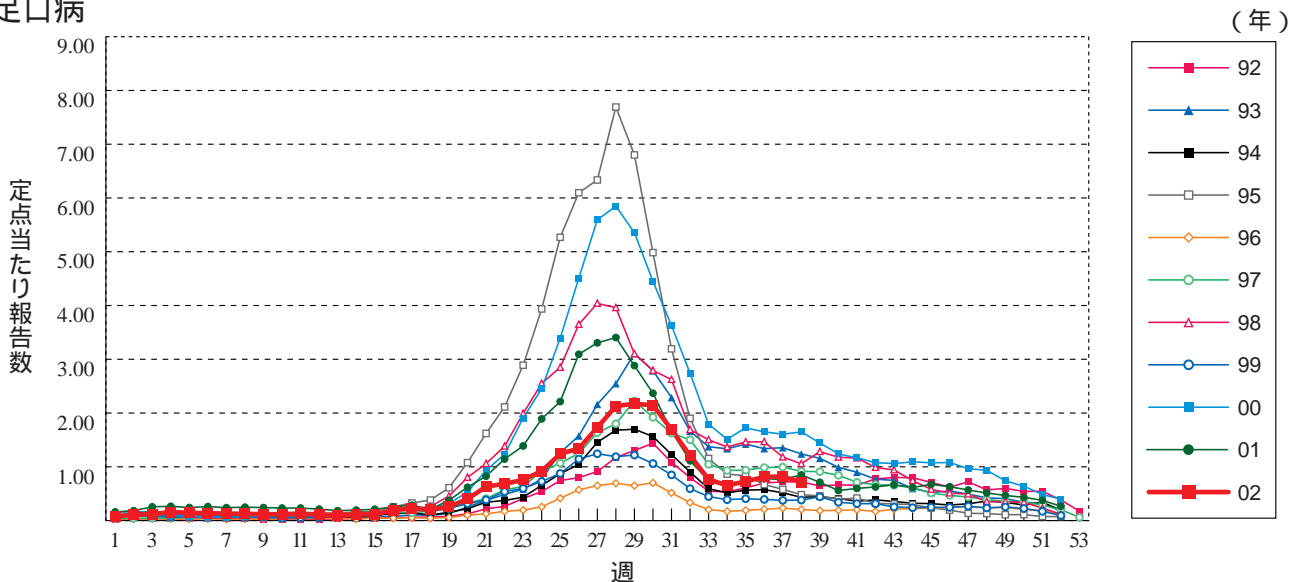
**感染性胃腸炎** 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



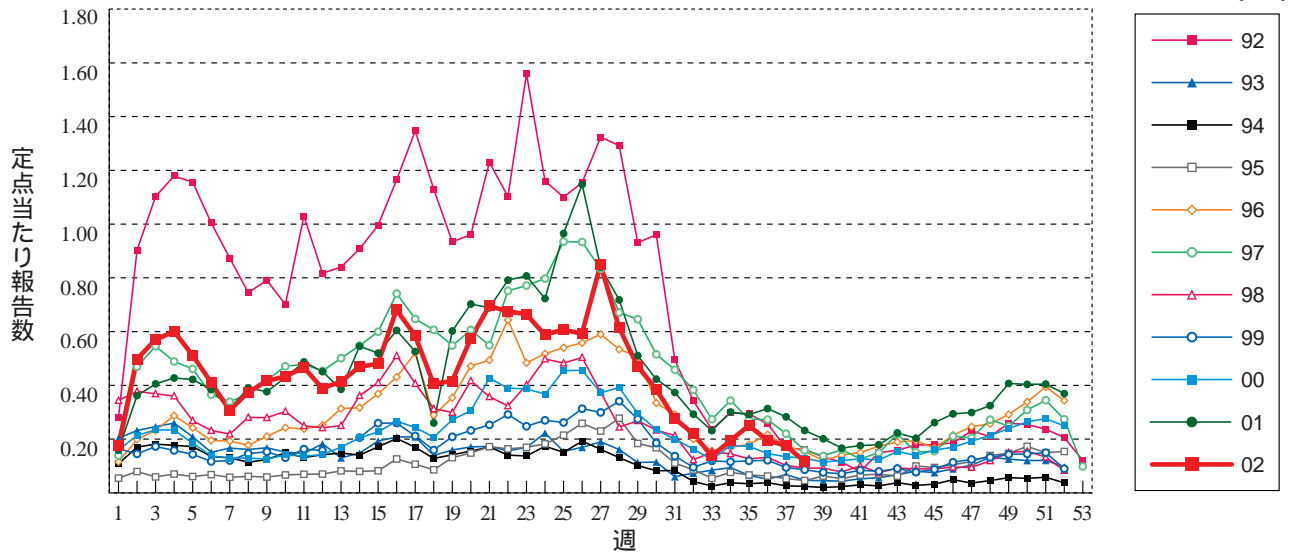
**水痘**



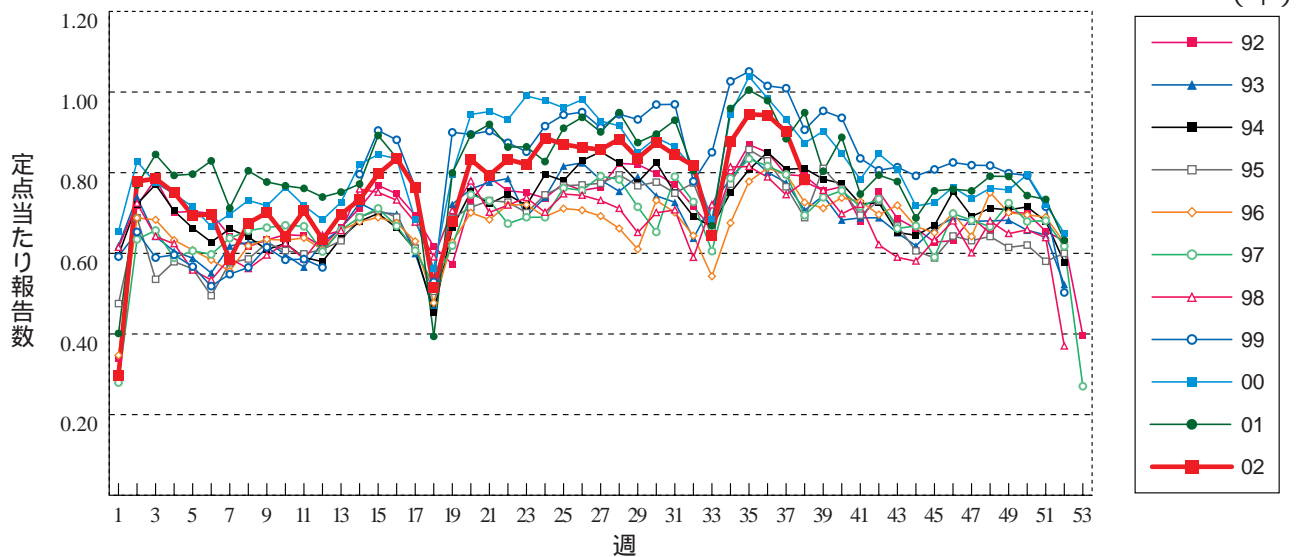
**手足口病**



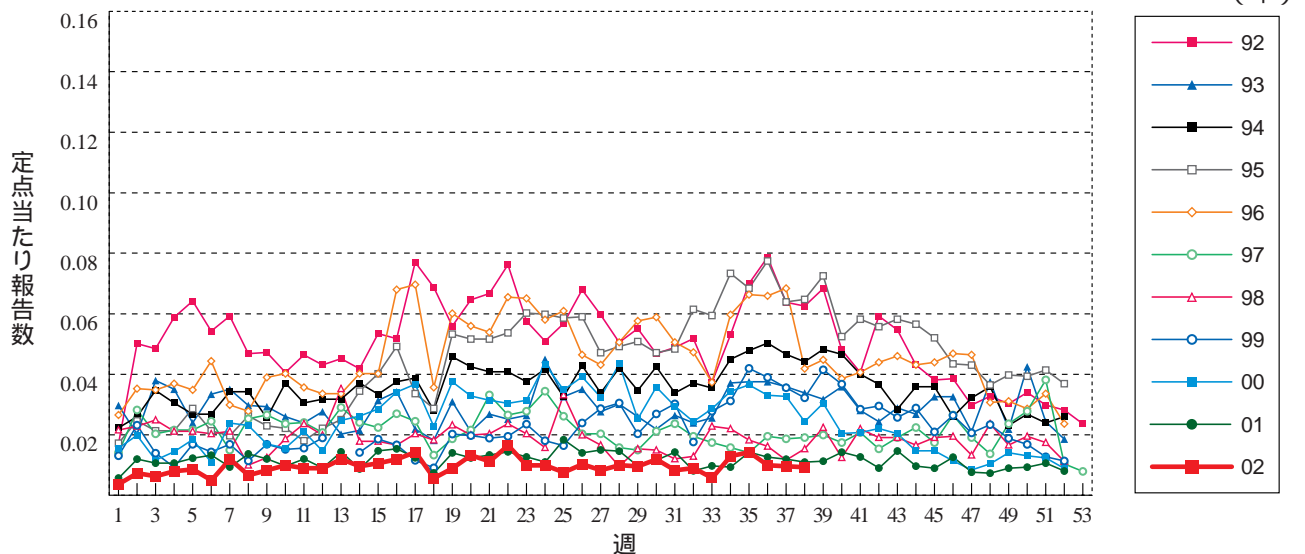
伝染性紅斑



突発性発疹

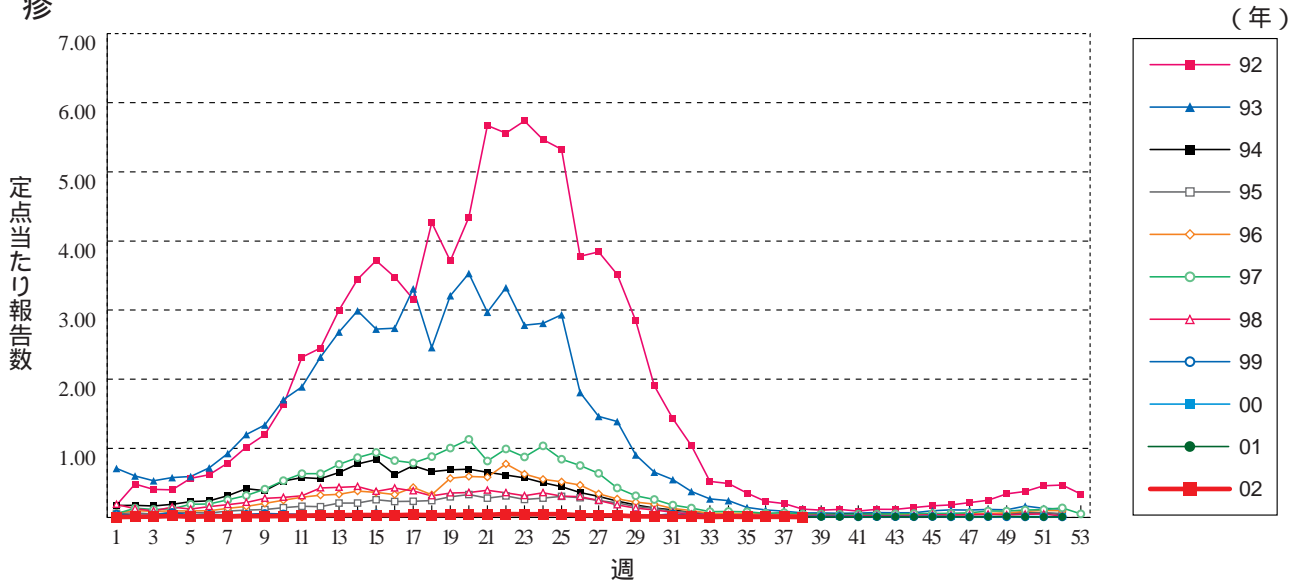


百日咳

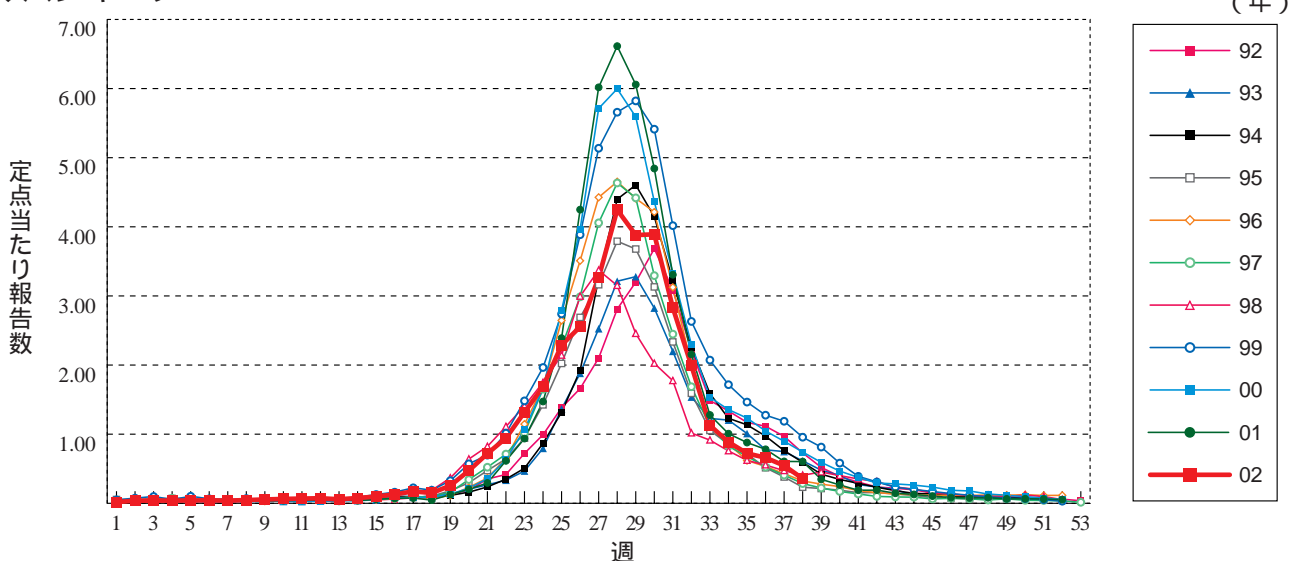




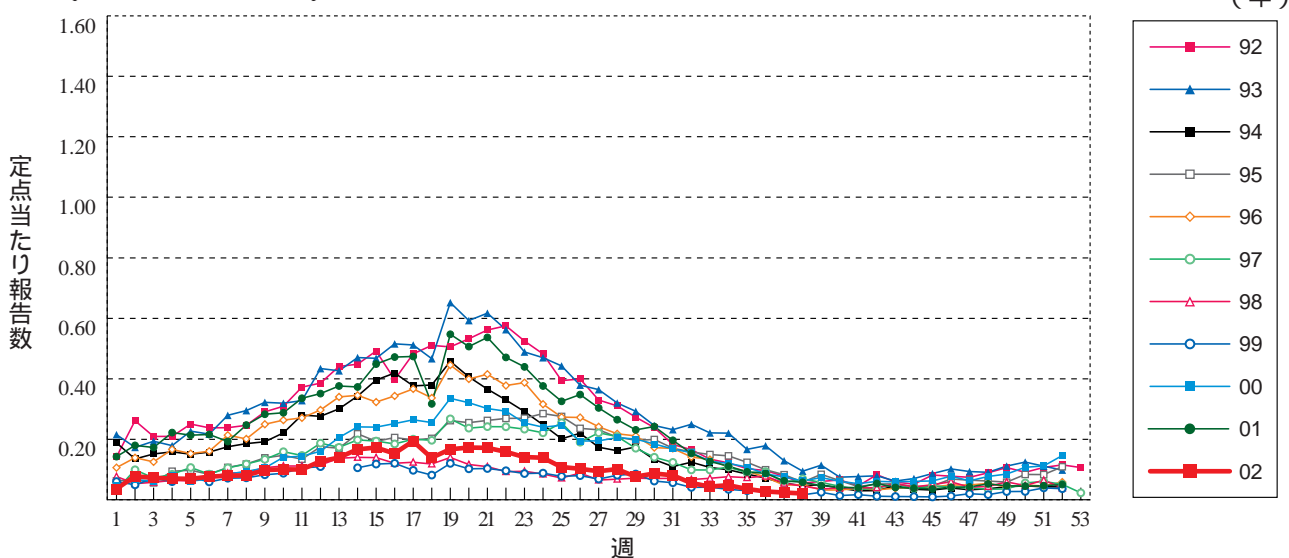
風 疹



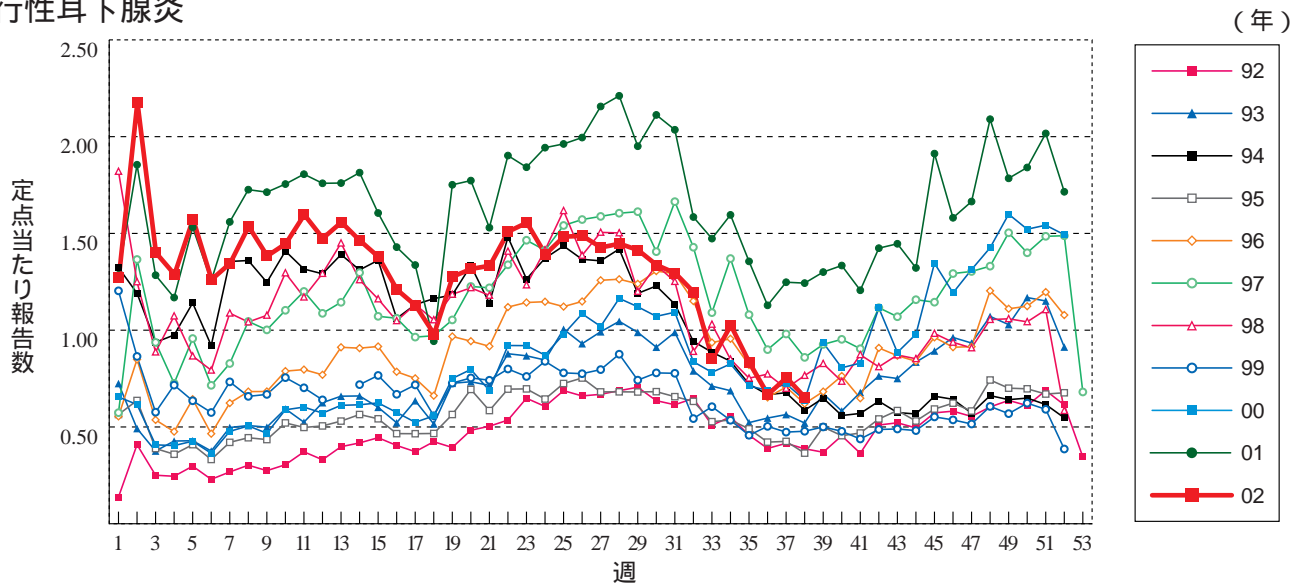
ヘルパンギーナ



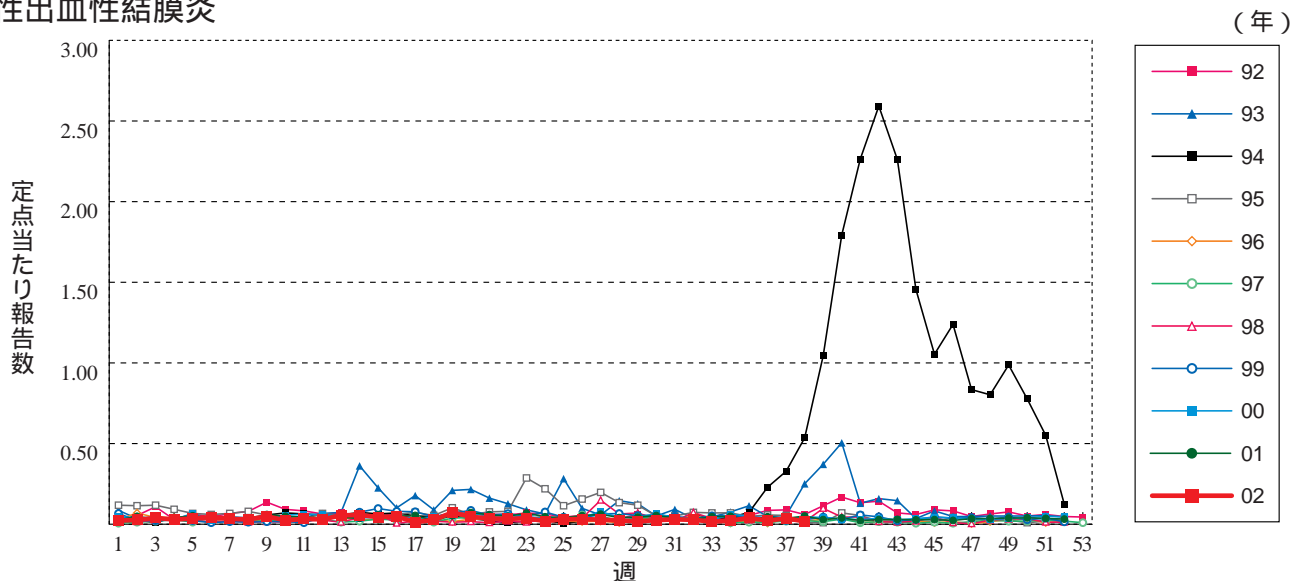
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



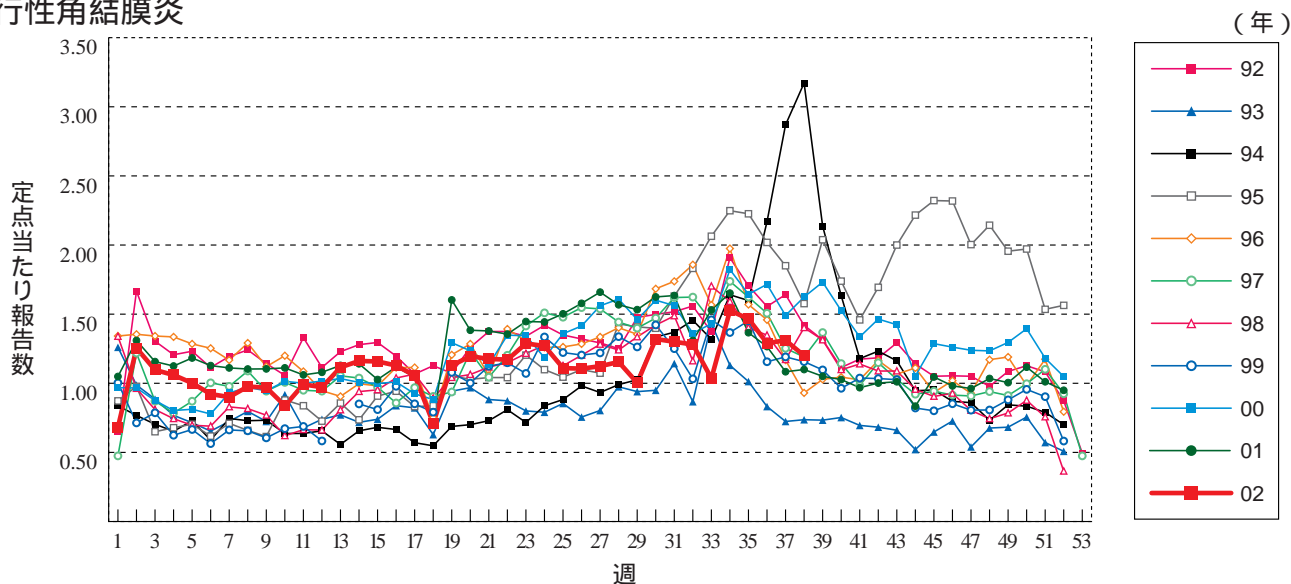
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

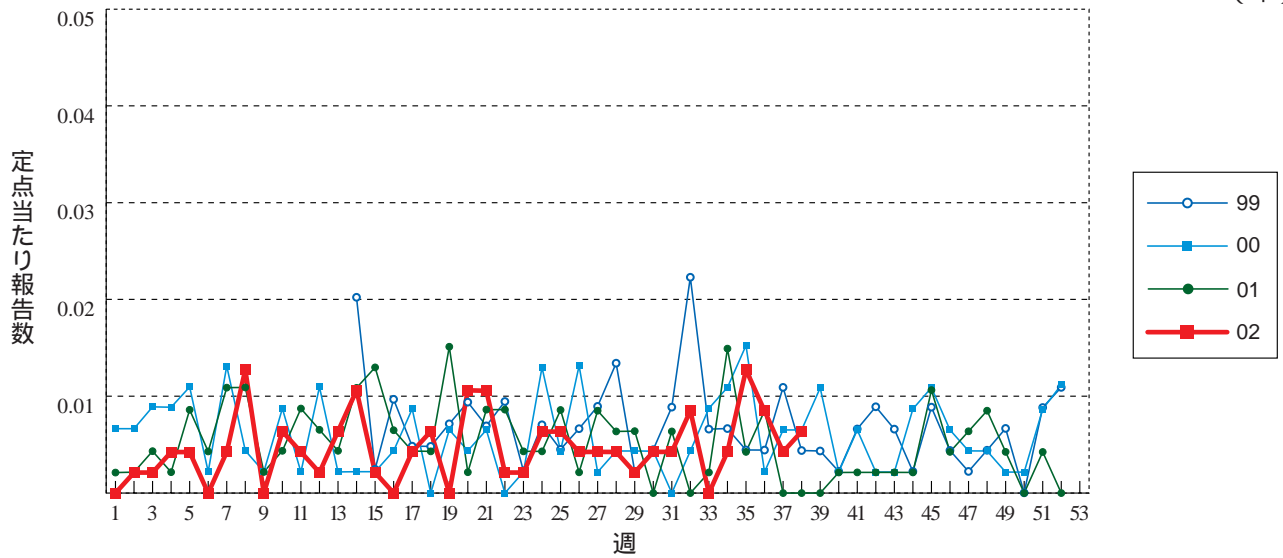


流行性角結膜炎



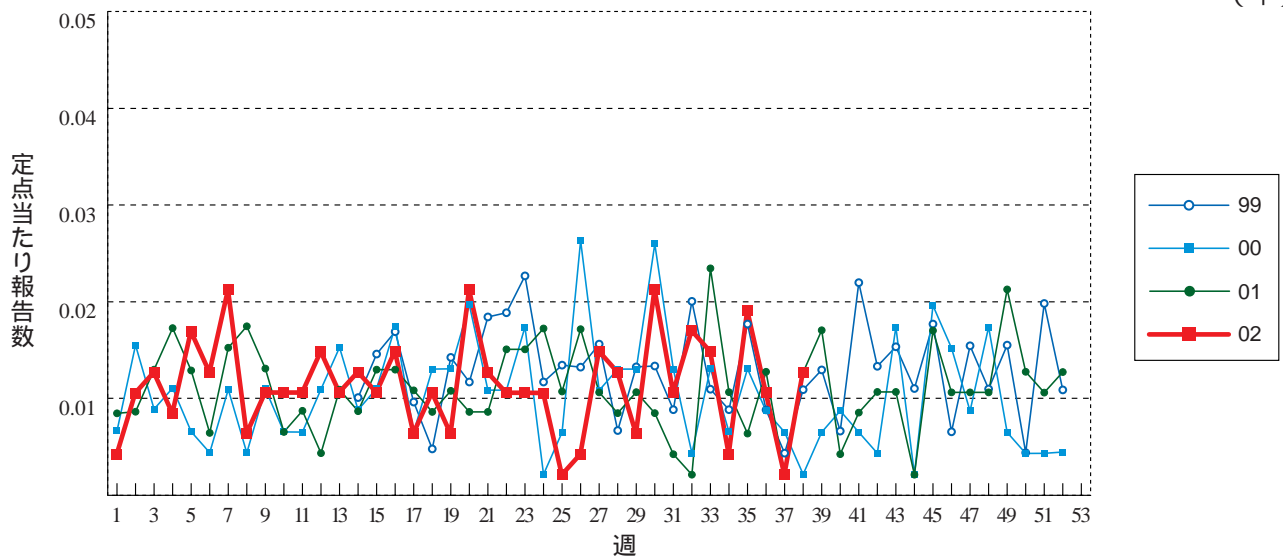
急性脳炎（日本脳炎を除く）

(年)



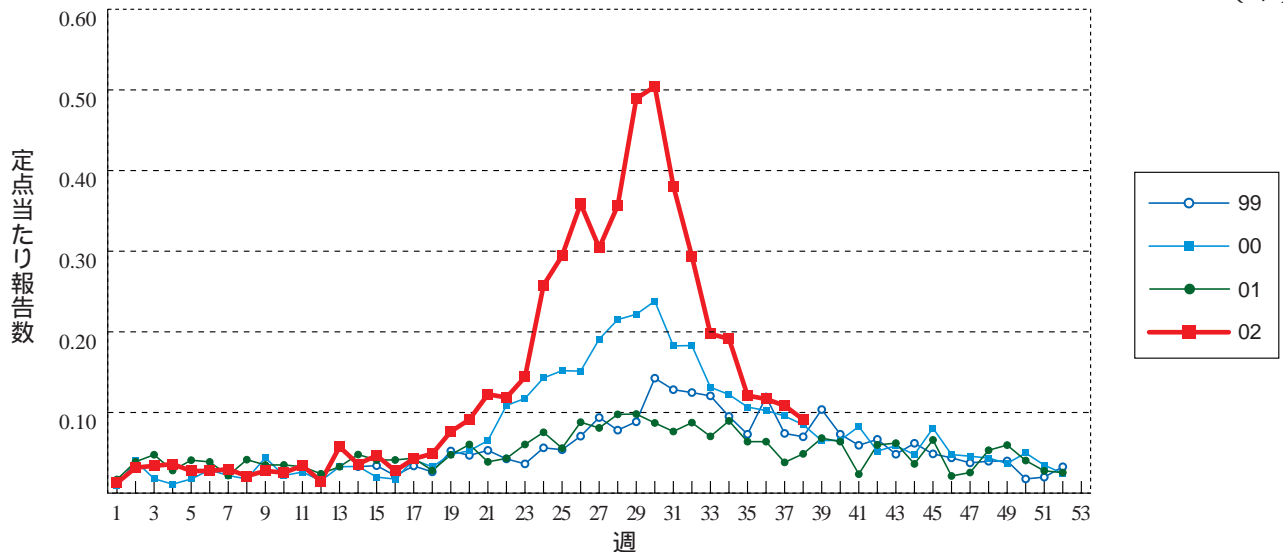
細菌性髄膜炎

(年)



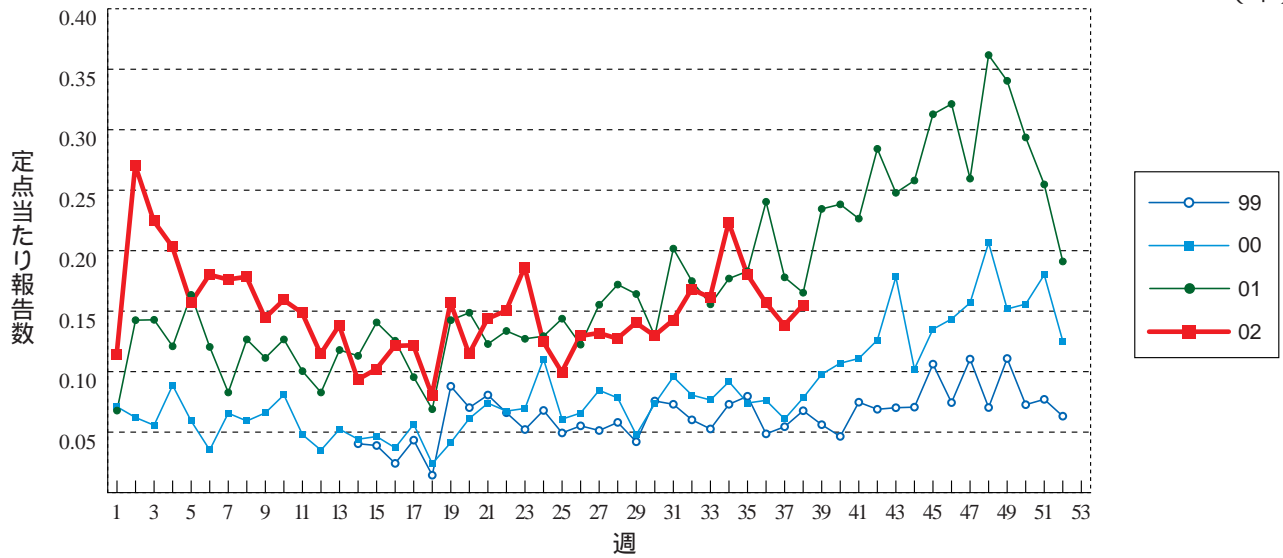
無菌性髄膜炎

(年)



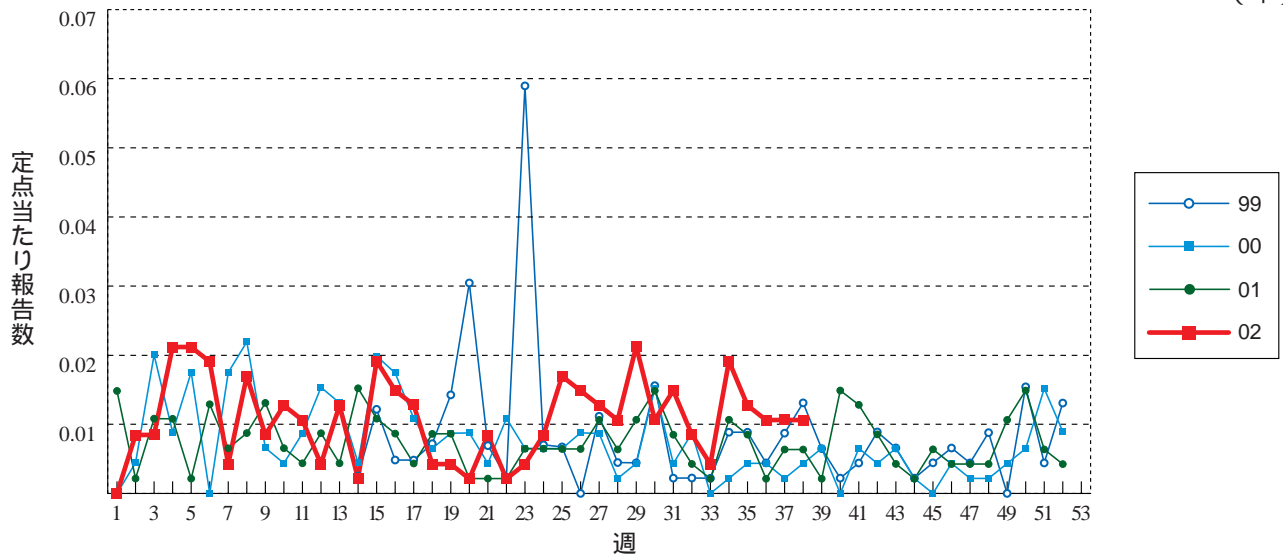
マイコプラズマ肺炎

(年)



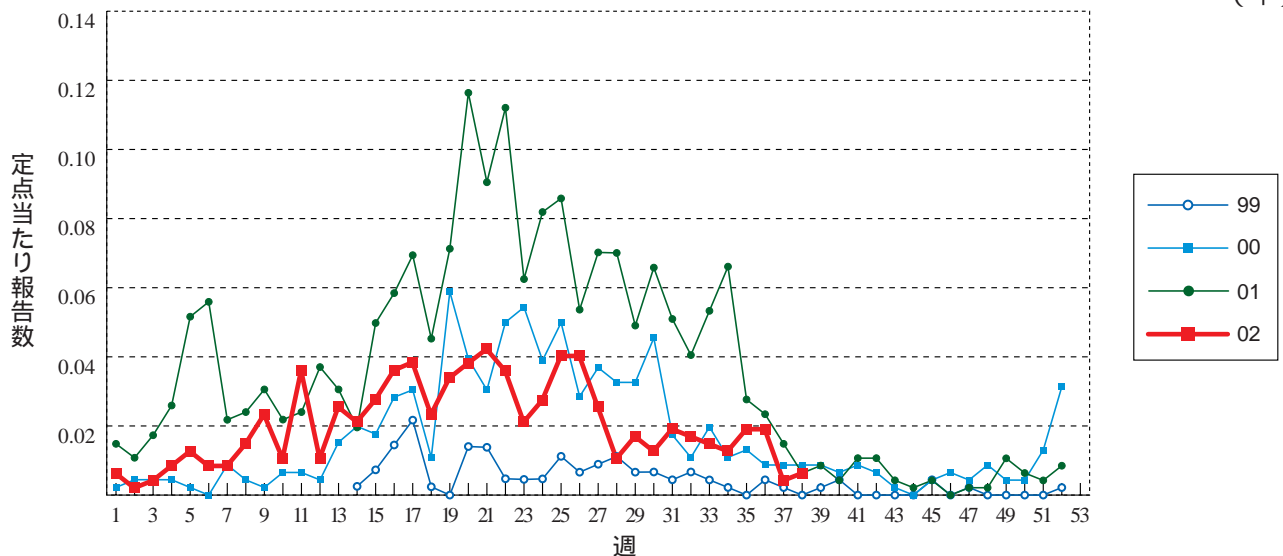
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





### 38週のデータ

注)表中の報告数は9月26日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年38週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43	17	537	-	50	1	27	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	2	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-		
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	15	-	-	-	1	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31	-	1	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	22	-	1	-	1	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	75	-	2	-	1	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	4	74	-	20	-	10	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	29	-	4	-	1	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	1	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	8	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	-	-	-	1	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	31	-	-	-	1	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	13	-	-	1	2	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	8	-	1	-	1	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	1	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	2	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	35	-	6	-	3	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	11	-	4	-	1	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	4	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	1	-	1	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15	-	4	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年38週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	64	2669	4	341	1	7	-	-	-	49	-	-	3	741
北海道	-	-	-	-	-	105	1	16	1	6	-	-	-	3	-	-	-	12
青森県	-	-	-	-	6	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
岩手県	-	-	-	-	1	88	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	-	56	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34
秋田県	-	-	-	-	1	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山形県	-	-	-	-	1	33	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
福島県	-	-	-	-	-	14	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
茨城県	-	-	-	-	-	16	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
栃木県	-	-	-	-	-	154	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
群馬県	-	-	-	-	3	33	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
埼玉県	-	-	-	-	2	56	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26
千葉県	-	-	-	-	-	128	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	1	42
東京都	-	-	-	-	4	146	1	91	-	-	-	-	-	3	-	-	-	132
神奈川県	-	-	-	-	1	80	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34
新潟県	-	-	-	-	3	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	26	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
石川県	-	-	-	-	16	97	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
福井県	-	-	-	-	-	30	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長野県	-	-	-	-	-	81	-	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	11
岐阜県	-	-	-	-	1	18	-	11	-	-	-	-	-	3	-	-	-	18
静岡県	-	-	-	-	-	40	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-	-	20
愛知県	-	-	-	-	-	89	-	16	-	-	-	-	-	1	-	-	1	41
三重県	-	-	-	-	-	10	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	2	12	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
京都府	-	-	-	-	-	43	-	10	-	-	-	-	-	2	-	-	1	19
大阪府	-	-	-	-	3	190	1	46	-	-	-	-	-	5	-	-	-	52
兵庫県	-	-	-	-	5	166	-	17	-	-	-	-	-	2	-	-	-	41
奈良県	-	-	-	-	-	24	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
和歌山県	-	-	-	-	1	20	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
鳥取県	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
島根県	-	-	-	-	1	27	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	1	71	-	7	-	-	-	-	-	1	-	-	-	16
広島県	-	-	-	-	1	41	-	3	-	-	-	-	-	8	-	-	-	21
山口県	-	-	-	-	-	26	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	18
徳島県	-	-	-	-	-	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
香川県	-	-	-	-	1	16	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
高知県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福岡県	-	-	-	-	3	228	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	26
佐賀県	-	-	-	-	-	164	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	2	34	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	1	48	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
大分県	-	-	-	-	-	19	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮崎県	-	-	-	-	2	29	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
鹿児島県	-	-	-	-	1	25	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
沖縄県	-	-	-	-	-	38	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年38週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	35	-	-	-	107	2	94	1	70	11	664	-	3	1	88	-	-
北海道	-	1	-	-	-	35	-	3	-	4	2	9	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山形県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	24	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	13	-	-	-	1	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3	1	22	-	-	-	1	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	5	-	2	1	6	-	31	-	1	-	4	-	-
東京都	-	27	-	-	-	3	-	7	-	8	5	265	-	-	-	39	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	-	45	-	-	1	7	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	-	-	1	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	9	-	-	-	3	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	19	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	1	-	-	-	-	-	3	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3	-	14	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	1	-	-	-	-	1	6	-	6	1	41	-	-	-	3	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	7	-	-	-	6	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	2	-	6	-	-	1	64	-	1	-	7	-	-
兵庫県	-	1	-	-	-	61	-	4	-	5	-	14	-	-	-	2	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
岡山県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	4	-	-	-	2	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	4	-	-	-	4	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	2	-	7	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成14年38週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	5	-	-	-	-	-	121	2	45	2	17	2	3	-	-	3	403
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	17
青森県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	2
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
山形県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	5
福島県	-	-	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	4
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	6
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	6
東京都	-	1	-	-	-	-	-	4	1	14	-	-	-	-	-	-	-	40
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	17
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	3
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	21
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	-	-	-	-	80
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	3	-	-	-	-	1	22
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3	-	-	-	-	-	4
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
広島県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	2	3	-	-	-	7
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	2
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	12
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	3
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大分県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	3	-	-	-	-	-	6
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5



第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成14年38週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	1	71	-	31	-	-	-	-	-	1	-	-	-	59	-	12	1	126
北海道	-	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	7	-	-
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
福島県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4
茨城県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
栃木県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
群馬県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	5
千葉県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
東京都	1	6	-	6	-	-	-	-	1	-	-	-	18	-	1	-	-	11
神奈川県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	2
富山県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	6
愛知県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	4
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	2
大阪府	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	9
兵庫県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	4
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
岡山県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
広島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山口県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福岡県	-	3	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
佐賀県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
大分県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮崎県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	35
鹿児島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	9
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年38週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	24	0.01	236	0.08	1144	0.38	6312	2.09	1522	0.50	2148	0.71	354	0.12	2373	0.78	28	0.01
北海道	2	0.01	6	0.04	97	0.67	166	1.14	112	0.77	253	1.74	34	0.23	82	0.57	2	0.01
青森県	-	-	-	-	3	0.07	43	1.02	26	0.62	53	1.26	8	0.19	16	0.38	-	-
岩手県	-	-	-	-	7	0.18	43	1.13	31	0.82	30	0.79	2	0.05	18	0.47	1	0.03
宮城県	-	-	-	-	11	0.19	166	2.81	17	0.29	78	1.32	23	0.39	58	0.98	-	-
秋田県	-	-	5	0.14	17	0.49	90	2.57	17	0.49	26	0.74	3	0.09	17	0.49	-	-
山形県	-	-	2	0.07	23	0.77	39	1.30	19	0.63	34	1.13	5	0.17	24	0.80	1	0.03
福島県	-	-	11	0.24	10	0.22	81	1.76	20	0.43	61	1.33	9	0.20	42	0.91	-	-
茨城県	2	0.02	-	-	13	0.17	111	1.44	33	0.43	26	0.34	3	0.04	26	0.34	-	-
栃木県	-	-	1	0.02	9	0.20	83	1.80	25	0.54	12	0.26	5	0.11	34	0.74	-	-
群馬県	-	-	5	0.08	23	0.37	82	1.32	28	0.45	15	0.24	10	0.16	64	1.03	1	0.02
埼玉県	-	-	7	0.05	65	0.42	314	2.04	72	0.47	81	0.53	12	0.08	145	0.94	1	0.01
千葉県	-	-	4	0.03	53	0.41	179	1.38	46	0.35	33	0.25	13	0.10	91	0.70	2	0.02
東京都	-	-	8	0.06	34	0.24	237	1.67	46	0.32	43	0.30	13	0.09	88	0.62	-	-
神奈川県	-	-	18	0.09	44	0.21	357	1.73	67	0.33	95	0.46	15	0.07	180	0.87	1	0.00
新潟県	-	-	3	0.05	21	0.35	211	3.52	29	0.48	62	1.03	13	0.22	35	0.58	-	-
富山県	-	-	-	-	21	0.72	94	3.24	14	0.48	44	1.52	2	0.07	32	1.10	-	-
石川県	-	-	1	0.03	4	0.14	87	3.00	28	0.97	21	0.72	4	0.14	20	0.69	-	-
福井県	-	-	5	0.23	4	0.18	99	4.50	28	1.27	3	0.14	-	-	24	1.09	-	-
山梨県	6	0.15	-	-	8	0.32	28	1.12	10	0.40	3	0.12	2	0.08	14	0.56	-	-
長野県	-	-	14	0.26	45	0.83	139	2.57	25	0.46	43	0.80	11	0.20	37	0.69	-	-
岐阜県	-	-	1	0.02	10	0.21	23	0.49	23	0.49	79	1.68	4	0.09	28	0.60	-	-
静岡県	-	-	8	0.09	31	0.36	173	2.01	32	0.37	54	0.63	5	0.06	82	0.95	1	0.01
愛知県	-	-	9	0.05	53	0.29	260	1.43	92	0.51	143	0.79	18	0.10	135	0.74	2	0.01
三重県	-	-	1	0.02	18	0.40	170	3.78	22	0.49	31	0.69	7	0.16	42	0.93	-	-
滋賀県	-	-	6	0.19	10	0.31	27	0.84	7	0.22	25	0.78	1	0.03	12	0.38	1	0.03
京都府	-	-	5	0.07	26	0.34	183	2.41	20	0.26	25	0.33	6	0.08	48	0.63	2	0.03
大阪府	1	0.00	15	0.08	58	0.30	328	1.68	81	0.42	86	0.44	9	0.05	150	0.77	1	0.01
兵庫県	1	0.01	13	0.10	31	0.24	372	2.91	77	0.60	82	0.64	11	0.09	108	0.84	-	-
奈良県	-	-	-	-	11	0.31	48	1.37	13	0.37	40	1.14	3	0.09	19	0.54	-	-
和歌山県	-	-	-	-	11	0.35	43	1.39	8	0.26	29	0.94	7	0.23	27	0.87	-	-
鳥取県	-	-	-	-	16	0.84	76	4.00	9	0.47	57	3.00	10	0.53	13	0.68	-	-
島根県	-	-	3	0.13	2	0.09	41	1.78	13	0.57	4	0.17	2	0.09	8	0.35	-	-
岡山県	-	-	-	-	10	0.23	78	1.77	37	0.84	47	1.07	6	0.14	30	0.68	-	-
広島県	-	-	17	0.23	35	0.47	149	1.99	30	0.40	87	1.16	2	0.03	71	0.95	3	0.04
山口県	-	-	3	0.06	35	0.71	128	2.61	24	0.49	12	0.24	13	0.27	48	0.98	2	0.04
徳島県	-	-	5	0.22	13	0.57	41	1.78	16	0.70	16	0.70	7	0.30	19	0.83	1	0.04
香川県	-	-	-	-	9	0.28	68	2.13	18	0.56	26	0.81	5	0.16	17	0.53	-	-
愛媛県	-	-	4	0.10	19	0.49	195	5.00	32	0.82	93	2.38	11	0.28	44	1.13	-	-
高知県	-	-	4	0.13	14	0.45	45	1.45	13	0.42	3	0.10	2	0.06	23	0.74	1	0.03
福岡県	-	-	24	0.20	80	0.67	434	3.62	68	0.57	32	0.27	13	0.11	150	1.25	3	0.03
佐賀県	-	-	7	0.30	17	0.74	21	0.91	19	0.83	2	0.09	2	0.09	42	1.83	-	-
長崎県	-	-	-	-	19	0.43	63	1.43	19	0.43	1	0.02	5	0.11	27	0.61	-	-
熊本県	-	-	9	0.18	33	0.67	126	2.57	45	0.92	8	0.16	10	0.20	50	1.02	-	-
大分県	-	-	2	0.06	34	0.94	175	4.86	38	1.06	3	0.08	-	-	50	1.39	-	-
宮崎県	-	-	6	0.16	14	0.38	187	5.05	28	0.76	10	0.27	2	0.05	42	1.14	-	-
鹿児島県	7	0.07	3	0.05	23	0.38	187	3.12	32	0.53	60	1.00	6	0.10	38	0.63	-	-
沖縄県	5	0.09	1	0.03	-	-	22	0.65	13	0.38	77	2.26	-	-	3	0.09	2	0.06

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成14年38週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	18	0.01	1079	0.36	63	0.02	1974	0.65	11	0.02	758	1.20	3	0.01	6	0.01	43	0.09
北海道	-	-	87	0.60	2	0.01	80	0.55	-	-	36	1.24	-	-	-	-	-	-
青森県	2	0.05	15	0.36	3	0.07	36	0.86	-	-	15	1.36	-	-	1	0.20	2	0.40
岩手県	-	-	6	0.16	2	0.05	62	1.63	-	-	6	0.50	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	33	0.56	-	-	105	1.78	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	9	0.26	-	-	43	1.23	-	-	6	0.86	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	9	0.30	-	-	29	0.97	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.30
福島県	-	-	30	0.65	5	0.11	63	1.37	-	-	14	1.17	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	0.01	8	0.10	4	0.05	21	0.27	-	-	28	1.75	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	8	0.17	-	-	41	0.89	-	-	21	1.75	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	25	0.40	1	0.02	49	0.79	-	-	156	12.00	-	-	-	-	-	-
埼玉県	1	0.01	41	0.27	1	0.01	62	0.40	3	0.09	47	1.34	-	-	1	0.11	1	0.11
千葉県	-	-	14	0.11	1	0.01	64	0.49	3	0.09	25	0.71	-	-	-	-	-	-
東京都	1	0.01	31	0.22	6	0.04	46	0.32	-	-	12	0.86	1	0.04	-	-	-	-
神奈川県	1	0.00	19	0.09	2	0.01	85	0.41	2	0.05	36	0.86	-	-	-	-	1	0.09
新潟県	-	-	8	0.13	1	0.02	58	0.97	-	-	8	0.89	-	-	1	0.08	8	0.67
富山県	-	-	11	0.38	-	-	32	1.10	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	10	0.34	-	-	12	0.41	-	-	6	0.86	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	13	0.59	-	-	4	0.18	-	-	5	1.67	-	-	-	-	1	0.17
山梨県	-	-	6	0.24	-	-	11	0.44	-	-	2	0.67	-	-	1	0.10	-	-
長野県	-	-	51	0.94	-	-	18	0.33	-	-	8	0.80	-	-	-	-	2	0.18
岐阜県	1	0.02	36	0.77	-	-	35	0.74	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-
静岡県	1	0.01	21	0.24	-	-	43	0.50	-	-	8	0.40	-	-	-	-	2	0.20
愛知県	-	-	47	0.26	7	0.04	84	0.46	1	0.03	23	0.66	-	-	-	-	1	0.08
三重県	-	-	46	1.02	-	-	22	0.49	-	-	4	0.33	-	-	-	-	2	0.22
滋賀県	-	-	14	0.44	-	-	22	0.69	-	-	3	0.43	-	-	-	-	2	0.29
京都府	1	0.01	18	0.24	-	-	30	0.39	-	-	7	0.39	-	-	-	-	-	-
大阪府	2	0.01	71	0.36	3	0.02	75	0.38	-	-	36	0.69	-	-	-	-	2	0.13
兵庫県	-	-	35	0.27	13	0.10	90	0.70	1	0.03	27	0.75	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	6	0.17	-	-	23	0.66	-	-	5	0.56	-	-	-	-	2	0.33
和歌山県	-	-	16	0.52	1	0.03	29	0.94	-	-	6	1.50	-	-	1	0.09	2	0.18
鳥取県	-	-	6	0.32	-	-	30	1.58	-	-	5	1.67	-	-	-	-	2	0.40
島根県	-	-	6	0.26	-	-	15	0.65	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.05	11	0.25	1	0.02	38	0.86	-	-	15	1.88	-	-	1	0.25	1	0.25
広島県	-	-	23	0.31	1	0.01	56	0.75	-	-	19	0.95	-	-	-	-	3	0.14
山口県	-	-	11	0.22	1	0.02	21	0.43	-	-	4	0.44	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	13	0.57	1	0.04	3	0.13	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	5	0.16	-	-	14	0.44	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	25	0.64	-	-	27	0.69	-	-	15	2.14	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	46	1.48	-	-	11	0.35	-	-	12	4.00	1	0.13	-	-	-	-
福岡県	4	0.03	47	0.39	-	-	76	0.63	1	0.04	61	2.35	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	3	0.13	-	-	11	0.48	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	6	0.14	-	-	80	1.82	-	-	18	2.25	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	41	0.84	2	0.04	14	0.29	-	-	12	1.33	-	-	-	-	2	0.13
大分県	-	-	23	0.64	1	0.03	60	1.67	-	-	7	1.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	45	1.22	2	0.05	61	1.65	-	-	18	4.50	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	-	-	20	0.33	1	0.02	58	0.97	-	-	4	0.67	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	4	0.12	1	0.03	25	0.74	-	-	3	0.30	-	-	-	-	3	0.43

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成14年38週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	73	0.15	5	0.01	3	0.01
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	11	0.55	2	0.10	-	-
宮城県	4	0.33	-	-	-	-
秋田県	9	1.13	-	-	-	-
山形県	5	0.50	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	2	0.15	-	-
東京都	3	0.12	-	-	1	0.04
神奈川県	1	0.09	-	-	-	-
新潟県	6	0.50	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	1	0.20	-	-	-	-
福井県	1	0.17	-	-	-	-
山梨県	4	0.40	-	-	-	-
長野県	1	0.09	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	1	0.25
静岡県	2	0.20	-	-	-	-
愛知県	1	0.08	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	1	0.17	-	-	-	-
大阪府	4	0.27	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.50	-	-	-	-
広島県	1	0.05	-	-	-	-
山口県	4	0.50	-	-	-	-
徳島県	1	0.17	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	0.17	-	-	-	-
高知県	2	0.25	-	-	-	-
福岡県	2	0.13	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.08	-	-	1	0.08
熊本県	3	0.20	1	0.07	-	-
大分県	1	0.09	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第4巻、第38号 平成14年10月4日発行  
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課  
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター  
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1  
TEL：03-5285-1111  
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html  
<国立感染症研究所 感染症情報センター>  
http://www.mhlw.go.jp/  
<厚生労働省>  
http://www.forth.go.jp/  
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。